

ブルーベリーの花芽分化とその促進並びに促成栽培

青木宣明, 周 雪賓

目 的

ブルーベリーの促成栽培は、ごく一部の生産者に限定されている。またこの場合、自然の低温を利用した休眠打破と引き続き加温する栽培方法であり、果実の収穫時期は露地栽培より1ヶ月～半月程度の促進である。一方青木ら(2007)は、人工低温により供試株を早期に休眠打破して促成し、より早期に果実を収穫する方法を検討し始めている。そのためには、供試株の花芽を早期に充実させ、より多く着生させる必要がある。本研究では、タイプの異なるブルーベリー品種の花芽分化の調査と株の山上げによる花芽着生の促進と充実、並びに促成による早期出荷(4月上旬)の可能性を検討した。

材料および方法

実験1：花芽分化

異なる4タイプ14品種を供試し、極早生品種の収穫期～11月上旬まで、半月間隔で5芽ずつ採取し、実体顕微鏡下で花芽分化を調査した。

実験2：花芽着生の促進

異なる3タイプ3品種を供試し、鉢植え温室栽培株(生育は旺盛、花芽分化にとって適温でない)を5月中旬～8月中旬まで、4週間間隔(対照区と合計5処理区、各10株)で山上げ(花芽分化に好適な気温の岡山県真庭市ひるぜん、標高約400m)し、山上げ時期と花芽着生の関係を調査した。

実験3：促成栽培

実験2の各処理区から花芽が多く着生した3株を抽出し、10月29日から12月17日までの7週間4℃で低温処理を行った。続いて加温室に搬入して促成栽培し、開花期、収穫期並びに結果率と果実形質を調査した。なお株を温室搬入後、開花初期からクロマルハナバチを放飼し、受粉させた。

結果および考察

実験1：花芽分化

収穫時期と花芽分化開始時期の関連で見ると、ハーフハイタイプ‘Northland’の花芽分化は収穫開始前後から始まり、サザンハイブッシュタイプ‘Ozarkblue’と外1品種は収穫最盛期から、また‘Duke’等それ以外の品種は収穫終了後から始まる3パターンに分類できた。一方単純に花芽分化開始時期の早晩に限ると、調査品種中の‘Northland’が最も早

く6月上旬、ラビットアイタイプ‘Brightwell’が最も遅く9月下旬であった(第1図)。これらの結果はYeら(2005)の報告に類似した。

実験2：花芽着生の促進

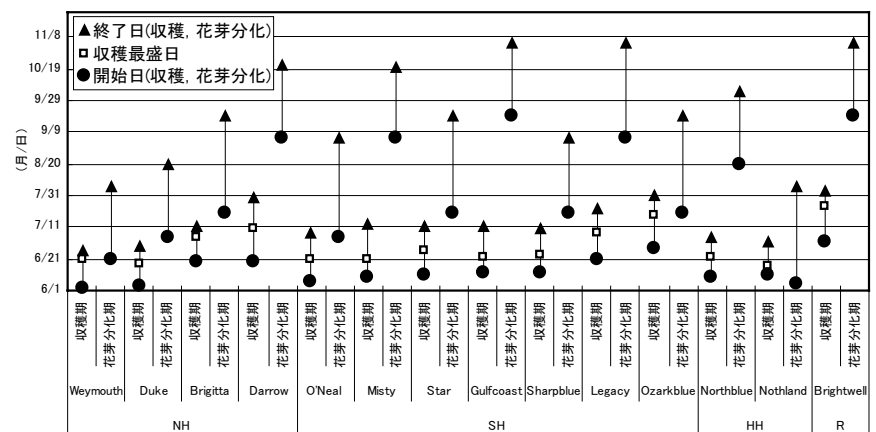
花芽着生数は品種と山上げ時期により異なった。‘Northland’と‘Duke’は5又は6月の、‘O’Neal’は6又は7月の山上げが花芽着生に有効であった。なお露地の対照区は、3品種とも花芽着生が少なかった。このことから山上げ時期は3品種とも6月が有効と考えられる。

実験3：促成栽培

満開日は品種によって異なり、‘Northland’が最も早く1月下旬、‘Duke’は2月10日前後で最も遅かった。収穫最盛期は3品種とも4月下旬で、当初予定した4月上旬の収穫開始は栽培温度の関係で実現できなかった。なお満開日、収穫最盛期とも、同一品種の処理区間差は少なかった。結果率は品種によって異なり、60～70%であった。果実形質のうち、果粒重は‘O’Neal’が最大で、‘Northland’が最小であった。処理区間差はほとんどなかった。

参考文献

- 青木宣明・周 雪賓.(2007)ブルーベリーの花芽着生と促成栽培に関する研究。栽培条件が花芽着生と促成に及ぼす影響。農業生産技術管理学会誌14(別1).15-16.
- Ye, Yu-Hong, N. Aoki, N. Konishi and N. Patel. (2005) Patterns of flower-bud differentiation, development, and growth habits of several blueberry (*Vaccinium* spp.) cultivar types grown in Japan and New Zealand. J. Japan. Soc. Hort. Sci. 74: 1-10.



第1図 松江市におけるブルーベリーの収穫期と花芽分化期の関連